

ジョルジョ・ヴァザーリ  
**美術家列伝** [全6巻]

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正 監修

2016年2月刊行予定

【第3回配本】 **第4巻** 本体価格 30,000円 + 税

\*\*\*\*\* 好評発売中 \*\*\*\*\*

【第1回配本】 第1巻 2014年2月刊  
 【第2回配本】 第3巻 2015年3月刊  
 各本体価格 30,000円 + 税



中央公論美術出版

イタリア・ルネサンスの同時代人が鮮やかに描きだした輝きの時代の記録、完訳で刊行開始

それは歴史であり、物語であり、記念碑である。

ジョルジョ・ヴァザーリ  
**美術家列伝**

[全6巻]  
 各巻本体予価 30,000円 + 税  
 2014年2月より年1回刊行予定

【監修】 森田 義之 (愛知県立芸術大学名誉教授)  
 越川 倫明 (東京藝術大学美術学部教授) 甲斐 教行 (茨城大学大学院教育学研究科教授)  
 宮下規久朗 (神戸大学大学院人文学研究科教授) 高梨 光正 (愛知県立芸術大学美術学部准教授)

イタリアの画家であり、建築家であったジョルジョ・ヴァザーリ (1511~1574) が著した、14世紀のチマブーエから16世紀のヴァザーリ自身にいたる、300年にわたる画家・彫刻家・建築家の生涯と作品の叙述の集大成。ルネサンス人ヴァザーリの鋭い観察眼と批評眼を通して、同時代の美術家たちの個性やエピソード、創造活動とその豊饒な作品世界が生き生きと語り出された、西洋美術の歴史における最も重要な著作、本邦初の全訳版刊行開始。

第1巻 (第1回配本)

森田義之・野村幸弘・谷古宇尚・高梨光正・吉澤早苗・越川倫明 訳  
 A4判上製函入 本文 448頁 挿図 300点 ISBN978-4-8055-1601-0 C3370

第1巻では、『美術家列伝』冒頭の献辞・総序にはじまり、ヴァザーリの記した三つの芸術 (建築、彫刻、絵画) の技法論と、ルネサンスの幕開けとなる、チマブーエからジョットを頂点とする14世紀の31編の美術家の伝記を収録。2014年2月刊行

第3巻 (第2回配本)

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・  
 足立薫・石澤靖典・飛ヶ谷潤一郎・高橋健一・深田麻里亜・友岡真秀・坂本篤史 訳  
 A4判上製函入 本文 558頁 挿図 350点 ISBN978-4-8055-1603-4 C3370

ルネサンスの最盛期を彩る16世紀の美術家たちの生涯を著した第三部のうち、その序論、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ジョルジョーネから、ラファエッロ、アンドレア・デル・サルトを経てパルミジャーノにいたる36編を収録。2015年3月刊行

関連書籍

カーレル・ファン・マンデル  
 「北方画家列伝」 注解

本体価格 32,000円 + 税  
 B5判上製函入 本文 780頁 挿図 245点 ISBN 978-4-8055-0705-6 C3071

尾崎彰宏・幸福輝・  
 廣川暁生・深谷訓子 訳編

ヴァザーリの『美術家列伝』は、イタリア国内ばかりでなく、画家兼美術理論家カーレル・ファン・マンデルにも計り知れない衝撃を与えた。ネーデルラントにおいて、まとまった形での第一級の美術文献はこの著作をもって嚆矢となす。「北方画家列伝」は、マンデルがもっとも力を入れた『絵画の書』の第4巻にあたる歴史的作品で、本書はその本邦初の翻訳と注解・解説論文を収録する。【2014年2月刊】

ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』 [全6巻]

【第1回配本】 第1巻 本体価格 30,000円 + 税 A4判上製函入 本文 448頁 挿図 300点 ISBN978-4-8055-1601-0 C3370  
 【第2回配本】 第3巻 本体価格 30,000円 + 税 A4判上製函入 本文 558頁 挿図 350点 ISBN978-4-8055-1603-4 C3370

2016年2月刊行予定

【第3回配本】 第4巻 本体価格 30,000円 + 税 A4判上製函入 本文 480頁 挿図約 300点 ISBN978-4-8055-1604-1 C3370

以降、順序未定、年1回刊行予定。

【第1回配本】 第1巻 [ ] 冊申し込みます  
 【第2回配本】 第3巻 [ ] 冊申し込みます  
 【第3回配本】 第4巻 [ ] 冊申し込みます  
 セット本体予価 180,000円 + 税 全6巻を [ ] セット申し込みます

お名前

お電話

ご住所

書店番線

中央公論美術出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1 IVYビル6階 電話 03-5577-4797 FAX03-5577-4798

※弊社は2015年4月27日より、上記住所へ移転いたしました。



# 刊行にあたって

監修者代表 森田義之

ジョルジョ・ヴァザーリの『美術家列伝 *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori*』(二五〇年第一版、一五六八年第二版)は、歴史上最初の公刊を意図した体系的な美術家の伝記集成であり、十四〜十六世紀の約三世紀にわたるイタリアの画家・彫刻家・建築家の生涯と作品を知るうえで、最も基本的で重要な史料の価値をもつ古典的な美術文献である。

『美術家列伝』(第二版)は、総序、技法論等に続いて、第一部(一三〇〇年代)三十一篇、第二部(一四〇〇年代)五十四篇、第三部(一五〇〇年代)八十一篇の計百七十一篇の伝記および関連する諸論を含んでいるが、今回の日本語全訳の企画では、全体を六巻の構成とし、各伝記ごとに、解説と詳細な註、可能なかぎり多数の写真図版を付して、欧米各国の翻訳版にも見られない情報量にとんだ邦訳決定版を期した。

本書の刊行によって、イタリア・ルネサンス美術への理解と関心が、美術や美術史に関心をもつ人の枠をこえて、イタリアの歴史と文化に関心をいだく多くの読者へひろがることを期待してやまない。

# 本書の構成

## 第1巻

総序

アレツォの画家ジョルジョ・ヴァザーリ殿による、三つの造形美術、すなわち建築、彫刻、絵画への序論

第一部 序論

チマブーエ  
アルノルフオ・デイ・カンビオ(アルノルフオ・デイ・ラーボ)  
ニコラ・ピサーノとジョヴァンニ・ピサーノ  
アンドレア・ターフィ  
ガット・ガッディ  
マルガリート(マルガリート・ネ) ジョット  
アゴスティーノ(・デイ・ジョヴァンニ)とアーニョロ(デイウエントウーラ) スターファン(・フィオレンティーノ)とウゴリーノ(・デイ・ネーリオ)  
ピエトロ・ロレンツツェッティ(ピエトロ・ラウラーティ)  
アンドレア・ピサーノ  
ブオナミーコ・フツファルマッコ  
アンブロジーヨ・ロレンツツェッティ  
ピエトロ・カヴァリーニ  
シモーネ・マルティーニ  
タッデオ・ガッディ  
アンドレア・オルカーニヤ  
ジョッティエーノ(トンマツ・デイ・ステファン)  
ジョヴァンニ・ダル・ボンテ  
アーニョロ・ガッディ  
ベルナ(バルナ・ダ・シエナ) ドウッチョ  
アントニオ・ヴェネツィアーノ  
ヤコポ・デル・カゼンティーノ  
スピネッロ・アレティーノ  
ゲラルド・スタルニーナ  
リッポ・フィオレンティーノ  
ロレンツツォ・モナコ  
タッデオ・デイ・バルトロ(タッデオ・バルトリ)  
ロレンツツォ・デイ・ビッチ

ペノツツォ・ゴツツオリ  
フランチェスコ・デイ・ジョルジョとロレンツツォ・ヴェッキエツト  
ガラツツ  
アントニオ・ロッセツリノ  
デジデリオ・ダ・セツティニヤノ  
ミーノ・ダ・フィエツレ  
ロレンツツォ・コスタ  
エルコレ・フェッラレーゼ  
ヤコポ・ジョヴァンニ及びジェンティーレ・ベツリーニ  
コジモ・ロッセツリ  
チエツカ  
バルトロメオ・テツラ・ガッタ  
ゲラルド  
ドメニコ・ギルランダイオ  
アントニオ・ポツライウオーロ  
サンドロ・ボツティチエツリ  
ベネデット・ダ・マイアーノ  
ヴェロッッキオ  
アンドレア・マンテーニヤ  
フィリッピノ・リッピ  
ピントウリツキオ  
フランチェスコ・フランチャ  
ピエトロ・ペルジーノ  
ヴィットーレ・カルパツチヨ  
リンダーコ  
ルカ・シニョレツリ

## 第2巻

第二部 序論

ヤコポ・テツラ・クエルチャ  
ニッコロ・アレティーノ  
デッコ  
ナンニ・デイ・バンコ  
ルカ・テツラ・ロツピエ  
パオロ・ウツチエツロ  
ロレンツツォ・ギベルティ  
マツリーノ  
パツリ・スピネツリ  
マザツチヨ  
フィリッポ・ブルネツレスキ  
ドナテッロ  
ミケロツツオ  
アントニオ・フィラレーテ  
ジュリアーノ・ダ・マイアーノ  
ピエロ・テツラ・フランチェスカ  
フラ・アンジェリコ  
レオン・バツティスタ・アルベルティ  
ラザロ・ヴァザーリ  
アントネツコ・ダ・メツシーナ  
アレツツ・バルドヴィネツティ  
ヴェツラーノ・ダ・パドヴァ  
フィリッポ・リッピ  
パオロ・ロマーノとマエストロ・ミーノ  
アンドレア・デル・カスターニョ  
ジェンティーレ・ダ・ファブリアーノ  
ペゼツロとフランチェスコ・ペゼツリ

## 第3巻

第三部 序論

レオナルド・ダ・ヴィンチ  
ジョルジョ・ネ・ダ・カステルフランコ  
アントニオ・ダ・コレツツジョ  
ピエロ・デイ・コジモ  
ブラマンテ  
フラ・バルトロメオ  
マリオット・アルベルティネツリ  
ラファエッリーノ・デル・ガルボ  
ピエトロ・トツリジャーノ  
ジュリアーノ・ダ・サンガツロとアントニオ・ダ・サンガツロ  
ラファエツロ・ダ・ウルビーノ  
グリエルモ・ダ・マルツツラ  
クローナカ  
ドメニコ・プリーゴ  
アンドレア・ダ・フィエツツレと他の  
フィエツツレの美術家たち  
ヴィンチエツツォ・タマーニとティモテオ・ヴィーティ  
アンドレア・ダル・モンテ・サンヴェイノ  
ベネデット・ダ・ロヴェツツアーノ  
バツチヨ・ダ・モンテルーポとラファエツロ・ダ・モンテルーポ  
ロレンツツォ・デイ・クレーティ  
ロレンツツェツトとボツカツチーノ  
バルダツツァーレ・ペルツツィ  
ジョヴァンフランチェスコ(ペンニ)とベツレグリーノ・ダ・モデナ  
アンドレア・デル・サルトル  
フロベルツィア・デ・ロツツ  
アルフォンソ・ロンバルデイ、ミケラ  
ンジェロ・ダ・シエナ、ジローラモ・  
サンタクローチエ、ドツツとバツティ  
スタ(・ドツツシ)  
ジョヴァンニ・アントニオ・リチーニオ・  
ダ・ボルテノーネと他のフリウリ地  
方の画家たち  
ジョヴァンニ・アントニオ・ソリアーニ  
ジローラモ・ダ・トレヴィツツ  
ポリドーロ・ダ・カラヴァツツジョとマ  
トゥリーノ・フィオレンティーノ  
ロツツ・フィオレンティーノ  
バルトロメオ・ラメンギ(ハニヤカ  
ヴァツツロ)と他のロマーニヤ地方の

## 第4巻

画家たち

フランチャビージョ  
モルト・ダ・フェルトレとアンドレア・  
デイ・コジモ・フェルトリーニ  
マルコ・カルディスコ(マルコ・カラヴ  
レーゼ)  
パルミジャーニノ(フランチェスコ・  
マツツォーラ)  
フランチェスコ・グラナツツ  
バツチヨ・ダニョロ  
ヴァレリーオ・ヴィチエンティーノ、  
ジョヴァンニ・ダ・カステル・ポローネー  
ゼ、マツテオ・ダル・ナツツァロ・ヴェ  
ロネーゼ、その他カメオや宝飾を手  
がける優れた彫工  
マルカントニオ・ライモンディとその  
他の版画家たち  
アントニオ・ダ・サンガツロ・イル・  
ジョーヴァネ  
ジュリオ・ロマーノ  
セバステイアーノ・デル・ピオンボ  
ペリーノ・デル・ウアーガ  
ドメニコ・ベツカフーミ  
ジョヴァンニ・アントニオ・ラツポリ  
ニッコロ・ソツツ  
トリーボロ(ニッコロ・デ・ペリーコリ)  
ピエリーノ・ダ・ヴィンチ  
バツチヨ・バンディネツリ

## 第5巻

イオ

ジュリアーノ・ラジャルディーニ  
クリストファノ・ゲラルディ  
ヤコポ・ダ・ボントルモ  
シモーネ・モスカ  
ジローラモとバルトロメオ・ジェンガ  
ミケレ・サンミケリー  
ソドマ  
アリストーティレ・ダ・サンガツロ  
ベンヴェヌート・ガローファロ  
リドルフォ及びダヴィド・ギルラン  
ダ  
ジョヴァンニ・ダ・ウーティネ  
バツティスタ・フランコ  
ジョヴァンニ・フランチェスコ・ルス  
チ  
フラ・ジョヴァンニ・アーニョロ・モン  
トルソーリ  
フランチェスコ・サルヴィアーティ  
ダニエーレ・ダ・フォルツツラ  
タッデオ・スツカリ

## 第6巻

祝賀装飾

ミケランジェロ・ブオナローティ  
フランチェスコ・プリマティツチヨ  
ティツィアーノ・ヴェチエリオ  
ヤコポ・サンソヴィーノ  
レオネ・レオーニ  
ジュリオ・クローヴィオ  
さまざまにイタリアの美術家たち  
さまざまにフランドルの美術家たち  
美術アカデミー会員たち、ブロン  
ズイア  
フランチェスコ・デ・メディチの婚姻  
祝賀装飾  
ジョルジョ・ヴァザーリ自伝

# 本書の特色

### ■ルネサンス美術史の基本文献、待望の全文翻訳

ルネサンス美術史の基本文献であるジョルジョ・ヴァザーリの『美術家列伝 *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori*』は、著名な芸術家の伝記については邦訳が出版されていたものの、その全訳は日本で一度も刊行されたことがない。西洋美術史における不朽の歴史的名著、ヴァザーリが 1550 年の第 1 版を大幅に書き改めて 1568 年刊行した第 2 版を、本邦で初めて完全翻訳する。

### ■美術史研究者による、最新の知見を盛り込んだ註解

美術史研究の第一線で活躍する研究者による新訳に加え、各伝記に、美術家の歴史的意義や第 1 版との異同を説明する解説と詳細な註を収録。イタリアのルネサンス美術史の研究状況を知るうえでも助けとなる情報を掲載する。

### ■本文に即した、数多くの図版

ジョット、レオナルド、ラファエッロ、ミケランジェロ、ティツィアーノ……だけではない、ジョルジョ・ヴァザーリの語るイタリア・ルネサンスを彩った美術家たちの作品を、可能な限り図版として付載。イタリア・ルネサンス美術の全体像を視覚的にも追体験する。

彼こそ、はるか後になって美術の学あるいは美術史学と呼ばれるようになった領域へと立ち入った最初の人であった。

ウード・クルターマン『美術史学の歴史』